

2010-2011

The Rotary Club of Tahara Pacific

WEEKLY REPORT

2010-2011 年度
RI 会長
レイ・クリンギンスミス
RI 第 2760 地区ガバナー
田嶋 好博



田原パシフィックロータリークラブ
例会場／華山会館 1F TEL(0531)22-1700
事務所／田原市田原町巴江 12 番地の 1
華山会館 3F(〒441-3421)
TEL(0531)22-5955 FAX(0531)22-7120
URL <http://www.pacific-rc.com>
E-mail info@pacific-rc.com
会長／鈴木 卓
幹事／大久保 寛
クラブ奉仕委員長／林 俊樹
クラブ会報委員長／河合 成幸

第 34 回 (No. 975) 平成 23 年 3 月 22 日

担当：プログラム委員会

《 会員スピーチ 》

例会場：華山会館 1F

■点鐘 午後 7 時 00 分

■ロータリーソング斉唱 「それこそロータリー」

■来訪者紹介並びに会長報告 鈴木卓会長



地震、原発という事で大変な状況になっていますが、地震から 5 日目に被災地のコンビニで被災者の人達が初めて物を買えるようになった時、小学 3 年生か

4 年生の子供がずっと並びチップスターなどのスナック菓子をやっと買えたそうです。お金を払いに行った子供は募金箱にお金を入れてお菓子を返しにいった話を聞いて泣いてしまいました。そんな事もあり僕らも精一杯募金をやろうと益々腹を固めました。先週休まれて今日出席された方を中心にお願いしますが、いつもは 1 回の募金で終わりますが今回は何とか皆さんにやって頂きたいと思い呼びかけておりますので募金箱を回しますのです是非協力を願えたらと思っております。僕もこの前はちょっとしかやっていないので改めて呼びかける以上はちゃんとしなければいけないと思っております。みっともないですがここで出させていただきますのでよろしくお願ひします。17 日に田原 PRC のゴルフがありました。優勝したのは大羽秀和会員で 2 位に平野義郎先生が入られました。皆からチャリティーゴルフにしようと自然発生し、ショートホールを外したら 1000 円という形にしたそうです。ほとんどの方がゴルフ技術を持っているのに他所を見て打って皆 1000 円ずつ払ってくれたそうです。誰が 1 位、2 位かを当てるともらうお金を今回、3 万 1000 円の金額をカンパで義援金に頂く事になりました。先程、臨時理事会を開きましたが例会の食事田原 PRC の会員がスピーチをする時、来週は U F J の支店長のスピーチですが田原 RC の会員なのでその時も避難所で食べている食事にしようと考え今日の様な弁当にして例

会食事費の残金を義援金にという事を提案させて頂き、皆さん方にご賛同して頂きました。具体的な日には今度の花見例会、今日、3 月 29 日、4 月 19 日（地区協議会の報告会）4 月 26 日（河合喜嗣君の会員スピーチ）はカップラーメンになるかもしれませんが残金は義援金へと思っております。最終例会の 6 月 21 日には菊万さんのバイキングを予定していましたがやめて平常通りの美味しい弁当にしてその日の残金も義援金へまわすと決めましたので是非ご了解頂きたいと思ひます。今まで国際奉仕委員会でマニラのカビテ RC に僕らや代表が行ったりして交流を長く続けていきましたが、こういう状況なのでその分を東北への義援金にと考えました。台北東海 RC 方の南の少数民族も地震の被害にあっていてそちらの方へも義援金を考えていりましたが、事情を話し台北へのお金も東北の義援金にさせていただきます。一生懸命やっていらっしゃった近藤さん達のご了解も頂きましたので先程の理事会で決めさせていただきますと思っております。残念な話ですが、富国生命の支店長の金子さんが 4 月 1 日でご栄転で松本支店に行かれるということで今日退会届けが文章で出されました。次の人もお願いしていましたが、それは確約が取れていないですが先程の理事会で認めましたのでよろしくお願ひします。ひょっとしたら何か忘れてある事があるかもしれませんがいろいろありますが義援金をよろしくお願ひします。

■幹事報告 大久保寛幹事

・3 月 29 日 ゲストスピーチ 清水泰晴様
会長の思いがいっぱい、いっぱい伝わってきて、何しろ 100 万円以上を向こうへ送りたい。出来れば現物を地元で買ってトラックで持って行きたいという意気込みですので是非ご協力をお願いします。

■委員会報告

○社会奉仕委員会 環境保全担当 真木良典会員
地区の環境保全委員長会議が東日本大震災の起きた 3

月11日に名古屋クレストンホテルで開催され参加してまいりました。しっかり聞けたかどうか分かりませんが報告します。愛知県の自然環境課主幹の丹羽さんの「未来に繋がる生態系ネットワーク」の講演がありました。県の方でもビオトープなど環境保全に対して補助金が出るということでは是非使って欲しいと言われております。その後事例報告があり、刈谷RCの創立60周年記念事業で生態系ネットワークの拠点作りとしてロータリーの森を旧刈谷市民館跡地に作り刈谷ハイウェイオアシスとの間に池を繋ぎネットワーク作りを行うという事例を報告されました。その帰りに地震が起きましたが全然気が付かずに豊橋まで来たら凄い騒ぎでした。

○親睦活動委員会 山崎昇委員長

3月のお祝い

——会員夫人誕生日——

柳田豊会員夫人 きくよ様

大羽秀和会員夫人 和代様

——会員誕生日——

松井準治会員 近藤正美会員 彦坂敏行会員

古溝裕介会員 古田勝美会員 金子孝治会員

辻義郎会員 竹内千春会員

——結婚記念日——

金子孝治会員 尾原脩会員 鈴木卓会員

河合成幸会員 豊田慈證会員 鈴木照幸会員

山崎昇会員 真木良典会員 松井準治会員

○近藤正美会員

実はさかのぼる事5年前、尾原会員がガバナー補佐の時にGSEでアメリカから5名の交換留学がまいりました。東三河分区である程度の期間面倒を見てくれということで男性3名、女性2名がアメリカのアーカンソー州から来ました。大久保幹事の家で大学教授の男性2名のホームステイをお願いして私が女性2名をお引き受けしました。そのうちの1人のシャロンプリンスという当時37歳だった先生から5年前に1、2回メールのやり取りはしましたが、私のアドレスを発見したからと地震と津波は大丈夫かと写真付きのメールを頂きました。愛知県と我々PRCは大丈夫だという返事をしましたが、毎日震災のニュースが流れていて非常に心配している。あなた方日本人は必ずこの挑戦に打ち勝ち、一致協力する素晴らしい民族だという事が書いてあり心打たれました。海外からもお見舞いを頂きました。いい加減な訳をしてありますがそれぞれの解釈をしてお目通し頂きたいと思っております。会長からカピテRCの支援の話がありましたが日本人の和田さんとは連絡が取れませんが、私の時の会長のマリーシーと連絡がとれこの状況では当面10年単位で支援は難しいとメールを送りましたが、来年は日本人の田中さんがRI会長になられるという事で田中さんを通じて我々の方から日本へ寄付をしますという返事がきました。我々も窮地は分かっているのであまり気にし

ないで下さいということでしたので我々としてはしばらく支援は国内の方へ向けたいと了解を得ましたので併せて報告しておきます。

■出席報告 小川高成出席委員長

会員総数 59名 出席義務者 53名

本日の出席者 37名 欠席者 18名

本日の出席率 67.27%

3月15日 (前回補正後 名欠 未 %)

3月8日 (前々回補正後 9名欠 84.21%)

3月1日 (前々回補正後 7名欠 87.27%)

■ニコニコボックス

・鈴木卓会長・大久保寛幹事…鈴木達司さん、今日はありがとうございます。市政への思い、これからの田原の指針をお話して下さい。

■会員スピーカー紹介

プログラム委員会 加藤武紀会員
委員長が急な欠席で私も何も聞いておりません。本日は会員スピーチということで詳しい説明は皆さんの方が良くご存知だと思いますので早速鈴木達司会員スピーチをお願いします。

■会員スピーチ 鈴木達司会員



豊田さんから1回何でもいいから話をしたいと言われ簡単に返事をしましたが、何を話そうか今朝まで悩んでおりました。自分は皆さんのお陰で任期8年間市議会議員を務めさせて頂きました。正確に言えば赤羽根の町会議員から市議会議員になりました。今日は取り留めない話になるかもしれませんが、今までの自分の思いの一端を少しだけ話させて頂きます。とにかく8年間本当にありがとうございました。2月2日を以って自分のビジネスが思いっきり出来る様になり、こんな幸せな日々が来るのかと本当に毎日が楽しくてしょうがないです。そんなにプレッシャーがあったとは自分では思っていませんでしたが任期が終わってみて本当に幸せだと感じています。自分の仕事をしていてこんなに楽しかったのは10年振りで農業をやっている良かったと思っております。議員をやっていた時は自分のビジネスに対する発想は全く浮かびませんでした。肩書きが取れたらあーしてみよう、こうしたらいいといろんな夢が出て来てきました。上手くいったらまた3年後位には話が出るかという状況にあります。皆さんご存知のように自分が議員になったのは平成14年の夏だったと思っておりますが、当時は3町対等合併だという事で私達は町の執行部、議会の皆さんから赤羽根の場合はどうしても合併しないとやっていけないという教育を受けておりました。いろんな諸事情があり表向きはそういう事でした。皆さんご存知の通りですが町長が私達のRCへ説明に来た時に私の大変尊敬する方が町長

に質問しまして「駄目になったでは困る。町長、俺に付いて来い！という発言は出来ないのか」と強い口調で質問しました。私はあの時に町長が「分かった。皆にそんなに熱い思いがあるなら俺に任せてくれ」という発言があれば私の8年間の苦労は全く無かった訳ですが、町長はその時は笑って住民発表が待っているから頼むという状況でした。知っての通り自分も赤羽根は合併を進めなくてはという洗脳を受けていたので「望む会」を作ろうとなった時に自分も一生懸命取り組んでいた事もありどういう事かサイコロが自分の目の前で転がって名前だけでいいから達司君、やってくれないかという事でした。今となるとどれ程の荷物を背負ったのか想像が付きません。責任の重さやいろんな方のいろんな考えの中で町長から署名を集めてくれと言われました。法的に認められる人数を集めるだけなら家族や親戚で十分いけるから何の問題もないと私達もそういう気持ちでいました。しかし、町長が私に言ったのは住民の有権者の過半数を取ってこないと困ると言われました。当時、有権者は5000人位だったと思いますが3000人の署名を集めなくてはいけない。3000人の署名を集めるのは大変気の遠くなる事でありました。その時に望む会を作ったのでマスコミの方達が取材に来ましたが私は本当に分かりませんでしたので今までの事の流れを私から記者の方に聞きました。「あなた達は本当はどう思っていますか」と「新聞各紙によって皆書く記事が違う。自分は純粋に今までの議会の人達、町の皆さんの話を聞く限り絶対に間違っていないと思うけれど一部では私達が起した行動に対して私達に厳しい意見もあるけれど俺はどうしたらいいか」と記者に聞きましたらある新聞記者が「私は取材を通じていろんなところで話を聞いてきた結果、私は正しいと思う。これはあくまでも私の取材の中で経験した事です」という話を聞いて少しほっとしました。3000人を超す署名集めをどんなふうにしたらいいのかと5日間は家の仕事をやる時間の余裕もなく、何時も12時位まで皆で情報交換をして話をしているご飯を食べる事も出来ず、寝ようと思っても頭が冴えてしまって寝られませんでした。酒を飲めば寝られると言われ飲んでみても寝られず、それでも寝なくてはと思い1時に寝ても2時、3時には目が覚めてしまう。お母さんに寝られないから仕事をしてくると言っただけの温室は電気が付いているのでそこへ行って仕事をしたりしていました。今、冷静に思うとうつ状態だったのかと思います。いろんなプレッシャーが掛かり反省の念がいっぱいありましたが、やらなくてはと思い必死に1人で300人以上の署名を集めました。あの時、3100名位だったと思いますが61%が集められました。今思えばもう少しやればもう10%位は伸びたのかと思いますが全戸は回っておらず、自分が回ったところでも留守のお宅もありました。もう一度行こうという話をしていたのですが、皆の集計を

合わせたら3000を超え、過半数に達したから町長との約束が果たせた。これで私達も一つの責任は終わったと少しほっとした期間がありましたが、そのうちに合併協議会の委員の意見を聞く会が出来き、その方々から全部私に集中質問をされるので何で私がそこまで皆にやられるのかと病みました。本来ですと町の執行部がきちっと答えて頂ければよかったですと思いますが町長がもう少し責任ある行動を取って頂ければ自分はもう少し楽だったと思います。自分の起した責任という事で個人的に励ましの手紙や見損なったという手紙がびっしり小さな字で書いて届きました。今でも手紙は取ってあります。今振り返って一番辛いと思った事は、合併協議会委員の意見を聞く会で何を聞かれるのか分からない事が一番辛かったです。自分は政治家でもなく何でもない今まで農業を一筋にやってきて農業の事について質問されるならばある程度答える自信もありましたが、政治の事だったり、駆け引きをされたり自分でも予期しない事、全く分からない事を言われたり平気でされたので2回目の時には他所の国に行きたい、人のいない所へ行きたいと思いました。でも、やっぱり最後は皆が望んで判を押してくれたから俺が逃げたらいけない、知っている事は答えて知らない事は知らなくてもしょうがない、嘘をつくのだけは止めようという気持ちになりました。あのような時というのは賛成の方が出てきても賛成の意見は言わず、反対の方達には名指しで誰がこの書類を書いたのかという質問までされました。その時に自分は「私にも大勢の信じて協力してくれる方がいますし、町民の中にも合併をしなくてはという熱い思いを持った方が沢山いました。その人達がいろんな中で知恵を出し合ってやりました」と答えました。自分が苦しんでいた時にある方が助け舟を出してくれました。その方は「お前は今、公務員じゃないか、公務員がそんな事を言っているのか質問するなら公務員を辞めてこの場へ出て来い、そうしたら聞いてやる」と言ってくれました。あの方がいなければ答える事も出来なかったと思います。本当に世話になったと思っています。本来ならばそのような質問が出た時には司会をされる町の執行部の方がかわすべきだったと思います。そして、悩んでいた時にロータリーに来ると鈴木正弘さんは亡くなられましたが、あの方は何時も私の隣へ来て頑張れよと何回も言って頂きました。いよいよ上手くいって4月になり町の町会議員立候補者の方は結果3人出ましたが、私の部落では信頼と慣わしで部の方で推薦をして九分九厘私の親戚の方が出る事になっていました。私達望む会としても合併推進を進めて下さい。それで返事をして頂ければ私達も協力をしますと親戚でもあるその方に2度、3度と5人、6人の幹部の方々とお願ひに行きましたが残念ながら分かったという返事は頂けませんでした。そこで私達の望む会は幹部会を何度も開き、この状況では誰がやってもせつかく60%

を越す署名を集めても初議会で否決されたら駄目になってしまうという事から賛成派から1人選出しようという事になりました。いろんな方に声を掛けましたが4月になっても誰もやり手がいないという事で私に話がきましたが私は自分の部落から妹の婿の兄が候補としてあがっていたので頑なに拒否していましたが夜中の3時まで押し問答した結果やると返事をしました。女房にはゴメンとひと言ったら分かったと言いました。親父には泣いて止めてくれと言われました。親父は望む会の幹部のところへ行き絶対にやらないとお願いに行ったら他人の私が事務長を引き受けるからお父さんにそんな事を言う権利はないと怒られました。親父はあいつの男義に負けたという事で私は赤羽根の町会議員に立候補する事になりました。実際に運動したのは本当に1週間でした。実際に選挙戦に入って始めて何も怖いものはない、失うものもなく無の境地というのを感じました。ただ、辛かったのは部落の方が全く私に対して反対でした。自分の運動に来てくれたのは一番少ない人数でどうしたらいいのか悩みました。赤羽根の町議会始まって以来だと思いますが私は辻説法をやり、政見を話しました。トレードマークは合併を進める達司、達司、達司で通しました。辻説法をしていますと他所の部落で私は厳しい状況ゆえに話をしていると感極まって自然に涙が出てきて涙声で「皆さん、本当に赤羽根町はこのまま合併しなくていいのですか」という問い掛けをして「私は署名を貰った責任で今までやってきました。私は合併を進める事に全力全霊を傾けて頑張ります」と話していると全然知らないお年寄りが窓を開けて見える様に手を振ってくれました。あの時の感動は本当に忘れる事が出来ません。辻説法で何箇所かの畑の真ん中で誰もいないところで力いっぱい叫んでお願いをして自分のうちへ帰ると励ましの電話が何本もありました。自分でもひょっとしたら勝って本当にやる事になったら家の仕事はどうしたらいいかとも考えました。お陰で町会議員に当選させて頂きました。議員になってとにかく1期目は何としても合併を進めよう。自分の支援をして下さった方々の中心が若い方々ばかりでその方々から子育て支援をやって欲しいと言われたので自分は1期目で選挙公約したのは合併を進める事と子育て支援と田原農業の振興の3つを選挙公約として又自分の仕事として考えました。一番自分が議員になってよかったと思うのは一般質問をした事が実際に事業として取り上げられた時の快感は議員でないと分からなかったと思います。自分は一般質問もどうやってやるのか知りませんでしたのでやはり議員の中でもいじめにあいましたが、やってやろうと思えば必死になって一般質問をしました。たまたま身内に豊橋で議員になった方がいたので、何も分からないけど何をしたらいいのか聞きに行きました。親戚の議員は「お前、何が得意だ。俺も4期も5期も議員をやって議長もやったけれど本当に細かい事は分から

ない。それはやはり給料をもらっている職員が一番良く分かるから俺は職員と仲良くして自分の主張を理解してもらうように人脈作りをして自分の得意分野を活かした」と言われました。農業問題は一番取り上げた事ですし、お陰で国への人脈を作って1年2回は農水省へ行って審議官へ要望してそれが実現したものも多々ありますがそれについてはこれからの時とさせて頂きます。本当にご清聴ありがとうございました。

■お礼の言葉 鈴木卓会長

達司会員ありがとうございました。これからも力を発揮して欲しいと思います。今日の募金は9万円集まりました。ありがとうございました。100万円超額達成は確実に出来ると思います。毎回、毎回地震の話をするのは止めようと思います。今日の話 最後に次回からは他の話をしたいと思っています。今、考えている事は県や市にはお金は出さないつもりです。東北の岩手か宮城の津波にあっていないところで具体的には水沢にあるRC(3つ)と又は遠野にあるRC(1つ)を考えております。会員が30名から40名くらいです。遠野はもっと少ないようですが、大都市の盛岡や仙台となると幾つもあるので水沢か遠野、花巻の辺りへ持って行きたいと思っています。現地で購入、被災地のRCとコンタクトを取り、受け入れ態勢が整うまで待ちますが僕は震災の支援は1年や2年ではなくずっと長い間と思っています。立脇の娘さんはまだ神戸の震災支援を毎年、毎年やっております。仮設住宅での生活も10年は確実に続くのではないかと考えています。そんなに急がない訳ですが、東北のRCと田原PRCが交流関係をもし、万が一何かあった時には東北のRCからの支援や交流を目指すわけではなく(協定ではありません)、そのような形が出来ればと思っています。東北の方達の力を借りて東北の震災にあった方々へ配って頂けるようにと思っています。持っていく物は賞味期限のない物を考えています。具体的には老人用オムツ、子供用オムツ、生理用品と今野田小学校へ連絡して震災にあった時に必要だと思うものを校長先生に考えてもらっています。6月か7月には道路も通れるようになりガソリンの心配も要らなくなり東北の態勢が出来た時に田原PRCの旗を立ててトラックで行くというイメージを持っております。実行するには一緒にトラックに乗ってくれる人のお願いとトラックのある方は貸して欲しい等いろんなお願いがありますが、可能かどうかは分かりませんがそんな事を考えております。100万円突破は確実に出来ます。それを例えば50万円分の老人紙オムツをすぐに調達出来るものでもないので早めに調達したり、いろんな形で進めていきたいと思っています。いい知恵があったら是非貸して下さい。是非実行したいと思っています。今日はありがとうございました。

■点鐘午後8時00分 記 河辺暁雄